

自由国民新聞

JIYU-KOKUMIN SHINBUN

2022 (令和4) 年
8月20日
第13号

発行所：自由国民連合
〒103-0014
東京都中央区日本橋蛸殻町
2-15-9-901
TEL：03-6661-2525
FAX：03-6661-7829

定価 1部500円

尊皇愛国・反共救国・保守団結・国際連帯——自由国民連合

安倍元首相が7月8日に凶弾に倒れ、亡くなって8月25日に49日を迎えた。四十九日の法要は、東京都の富ヶ谷の私邸で、昭恵夫人や実弟の岸信夫首相補佐官など親族が集まって営まれた。しかし、事件の真相はまだに公開されていない。9月27日に元首相の国葬儀が行われる。元首相がこれまで日本と世界に貢献したものは何か、元首相の遺志は何かを考え、自由国民連合として元首相の偉業を振り返る。

自民党安倍派は8月25日、総会を開き冒頭に、出席者が黙とうをささげ、「元首相の遺志を継ぎ、心一つにして頑張るとの誓いを申し上げた」(塩谷立会長代理)。午後には、同派の世耕弘成参院幹事長や西村康稔経済産業相らが私邸を訪れた。

25日には、警察庁が安倍元首相銃撃事件に関し、警備計画の不備、要人後方の「空白」のミスなどをまとめた報告書を発表、同時に、中村格警察庁長官と奈良真警の鬼塚友章本部長が辞意を表明、翌日承認された。警備部門トップの桜沢健一警備局長の辞職も閣議で承認された。

警備体制の不備は公開されたものの、事件の真相はまだに公開されていない。安倍元首相の死因は「何だったのか、見つかったのかな」といわれる銃弾の行方、なぜ当日の警備が不備だったのか、山上徹也容疑者の単独犯行か、複数犯か、なぜ警備官は一発の爆音の



安倍晋三元首相

「この国を自信と誇りの持てる国にしたいという気持ち」(安倍晋三著「新しい国へ」)であった。安倍元首相の偉業は一言では語りつくせない。主な業績を取り上げる。第一次政権では、「戦後レジームからの脱却」を掲げ、戦後GH

安倍元首相のレガシーを継承せよ

日本人よ、「大和心」をとり戻せ

Q(連合国軍最高司令官総司令部)による占領政策によってつくられたレジームからの脱却を目指し、憲法改正と安全保障体制の見直しに取り組んだ。内閣府の防衛庁を独立した防衛省に昇格して外国との防衛交渉で防衛大臣として対等な立場を確保した。教育基本法の改正では、「人格の完成」と「国家・社会の形成者としての資質の育成」を教育の目標と定め、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐ

脚していた」(文芸評論家、小川榮太郎氏)。そのことが、GHQの反日政策に便乗して浮上したマスコミ、文化人、有識者には絶対を受け入れられなかった。このため、マスコミ、文化人は、安倍政権を攻撃の的にしたのである。

「日本を、取り戻す。」

自民党は5年間の野党時代を経て、2012年12月、民主党から政権交代し、第二次安倍政権が始まった。12月の総選挙で自民党は「日本を、取り戻す。」のスローガンを掲げた。「これは単に民主党

き、内閣総理大臣を中心に、日常的に、機動的に審議する場として国家安全保障会議(NSC)を内閣に設置した。同時に、安全保障に関する情報のうち特に秘匿する必要があるものを「特定秘密」として指定し、漏洩した場合の罰則などを定めた特定秘密保護法を成立させ、同盟諸国と機密情報を共有できる環境を整備した(2014年12月10日に施行)。

「大和心」を取り戻せ

「しきしまの 大和心のを、しきは ことある時ぞ あらはれにける」
平成最後の2019年1月の施政演説で、当時の安倍首相は、日露戦争開戦に向けて国民を鼓舞した明治天皇の御製を引用、日本人として行くべき道を次のように訴えた。

といわれている。回答者の供述は真実なのかどうか。警察当局の捜査と解明に期待したい。同時に、真実を国民に知らせる使命がある。マスコミも、事件の真相を究明してほしい。

「戦後レジームからの脱却」

第一次第二次安倍政権、8年8ヶ月歴代最長の総理として安倍元首相の政治姿勢に貫かれていたものは、「政治は未来のためにある」

くんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う」として「愛国心」「郷土愛」を盛り込んだ。

政権から日本を取り戻すという意味ではありません。敢えて言うなら、これは戦後の歴史から、日本という国を日本の手に取り戻す戦いでありませぬ(前出著書)という意味だった。

この安倍法制の成立を受け、安倍氏は、自由と繁栄の弧、セキユリティダイヤモンド構想、そして「自由で開かれたインド太平洋構想」を提唱、軍事同盟関係ではないが、日米豪印の事実上の安全保障体制(クワッド)を構築した。この安倍氏の日本主導の構想に米

「二年間の在任期間の中で、これだけ重要な法案を可決することができたのは、安倍首相でなくてはできなかった」「安倍氏は、政治家として、常に日本を基軸に立

第二次政権では、「デフレからの脱却」(アベノミクス、金融財政、成長戦略)、「地球儀を俯瞰する外交」そして「総合安全保障」を打ち出した。

田政権に向けてくるのは目に見えている。国葬儀の是非については始まっている。岸田首相には、国葬儀の弔問外交を通して安倍レガシーの継承者として世界にアピールしてほしいものだ。

心のふるさとを訪ねて私の神社巡り

西ゆかり (関東ブロック)

安倍元総理の「大和心」の石碑を訪ねて——香取神社

先月7月10日の参院選開票当日、ネット配信の「チャンネル正論 参院選開票特番」を見ていたから、千葉県香取市にある香取神社の境内に8日に亡くなられた安倍元総理の「大和心」と書かれた石碑が話題になっていました。

2020年3月末に鹿島神社を参拝した際、近くにある香取神社にも行きたいと思いましたが、香取神社は駅から離れていて、神宮近くは停まる高速バスがコロナ禍の為に東京駅から1日1本、夕方発の便しかなかったため行く事が出来ずじまいでした。そこで、なんととしても行くことと調べたら5月末から土日祝日に限り1日3本の運行が始まっていたので早速参拝に出かけました。

8月6日、東京駅から高速バスで1時間15分程、念願の香取神社に到着しました。当日の香取市の天気予報は非常に暑い予報だったのですが、連日の暑さが嘘のように涼しい日でした。

香取市にある香取神社は、全国にある香取神社の総本社。御祭神は、経津主大神(ふつぬしのおおかみ)です。古くから国家鎮護の神として皇室からの御崇敬が最も篤く、特に『神宮』の御称号(明治以前には伊勢・香取・鹿島のみ)を以て奉祀されています。

参道正面の朱色の鳥居をくぐり、木々鬱蒼とした玉砂利の参道の両側には、桜や楓が植えられていて鮮やかな緑に癒されつつ、まずは香取護國神社を参拝しました。そしてすぐ近くの有名な要石へ。神宮の資料によると、「古くよりこの地方は大変地震が多く、これは、地中に大きなナマズが住み着いて荒れ騒いでいるのだ」と香取・鹿島両神宮の大神様等は、地中に深く石棒を差し込み、ナマズの頭尾を刺し通されたといえます。当神宮は凸形、鹿島は凹形で、地上に一部を現し、深さ幾十尺と伝えられています」とのこと。

奥宮を参拝後、正面の総門から入り重要文化財に指定されている朱色の楼門をくぐり、とても美しい黒塗りの本殿に見惚れつつ参拝しました。楼門の上にある額は東郷平八郎の筆によるものだそうです。



香取神社正殿

晋三奉賛会長」への哀悼の意が表されていきました。安倍元総理の「大和心」と言う揮毫は奉賛会長として書かれたのです。

参拝前に何故安倍元総理が奉賛会長に就任されたのか知りたかったのですが、神社の方からその経緯を教えてくださいました。

石碑を見ながら普通「大和」の言葉の後は「魂」と言う言葉がイメージされますが、安倍元総理が「大和心」と揮毫されたその心を知りたいと思うと共に、この揮毫のご真筆は何処に有るのか、有るのなら見てみたい、と思えました。もしかしたらご真筆が宝物殿に有るかも知れないと、宝物殿を見学しました。

宝物殿には国宝の「海獣葡萄鏡」などが出来ました。奉賛会の初代会長が岸信介元総理で、それから歴代の首相経験者に奉賛会長をお願いされたそうです。前回の大祭の際に当時の安倍総理にお願いしたら快く引き受けて下さったそうです。

石碑を見ながら普通「大和」の言葉の後は「魂」と言う言葉がイメージされますが、安倍元総理が「大和心」と揮毫されたその心を知りたいと思うと共に、この揮毫のご真筆は何処に有るのか、有るのなら見てみたい、と思えました。もしかしたらご真筆が宝物殿に有るかも知れないと、宝物殿を見学しました。

宝物殿には国宝の「海獣葡萄鏡」などが出来ました。奉賛会の初代会長が岸信介元総理で、それから歴代の首相経験者に奉賛会長をお願いされたそうです。前回の大祭の際に当時の安倍総理にお願いしたら快く引き受けて下さったそうです。

憲法改正と大日本帝国時代の戦争の実情を研究

内外情勢認識会議

自由国民連合の有識者によって国内、海外の情勢を分析、研究する内外情勢認識会議は、7月30日と8月20日の2回行った。

7月30日のテーマは憲法改正問題で、各政党や保守系団体の提示する憲法九条改正草案を比較した。その結果、ほとんどの草案は同音異句であり、①侵略戦争は行わない、②自衛のための国軍を保持する、③内閣総理大臣が最高指揮権を持つ、という三点が共通している。重要なことは国際標準の軍隊を保持することであり、改正の要点はそこにあることを確認した。

阿部会長を囲む会

女性局の使命と役割を自覚

首都圏女性局

自由国民連合としての独自の九条改正案を持つべきかを検討したが、自民党草案に我々の意図が含まれているので、そのまま自民党案を支持することとした。

8月20日は二つのテーマがあった。第一は前回に引き続き改憲の話題で、特に国民投票制度の研究をした。改憲は憲法九十六条で定められているが、実際に改憲を行う際に必要となる具体的な手続きが規定されていない状態が長い間手つかずのままだった。第一次安倍政権の平成19年になってようやく「日本国憲法の改正手続に関する法律(憲法改正国民投票法)」が可決、同年5月18日に公布され、第二次安倍政権下の平成26年と菅政権の令和3年に細部の改正を施して、これで制度は整った。

しかし改めて制度を検討してみると、難関がいくつもあることが見えてきた。それを後押しするのは世論の力であり、積極的に働きかける必要性を再確認した。

第二は歴史の話題で、大日本帝国時代での戦争犠牲者、軍事費について勉強した。政府統計、靖国神社の合祀者数などから、日清戦争、日露戦争、満州事変から大東亜戦争を含めて、合計約二百五十万人の軍人・軍属(戦没者率は30%)、80万人の民間人が犠牲とな

女性局の集會



女性局の集會

まず、女性局長の末広涼子さんが茶道の心得、作法、歴史(表千家、裏千家、その他流派)について講話。「茶道、華道、武道等は形から入りますが、一つ一つの動きには意味があります。茶道の場合には御客様のための心づかい、おもてなしという形の意味合いがわかれば、綺麗な御点前、作法になります」と説明、今回は、客側からの作法(頂く時)について学びました。

手際よく御茶会が始まり、七夕を描いた生菓子、干菓子、御抹茶を頂きながら、ちよっと干利休の茶人としての生き方に想いを馳せての時間となりました。



女性局長の講話

引き続き、阿部会長が講話。「日本には、茶道、華道、武道、和食等の日本精神を形に表した文化がある」として、日本文化の継承の大切さを強調しました。その後、自身の自叙伝を取り上げながら、英国と日本の国家的使命を一つに繋ぐことの重要性和、金沢での体験などを当時を振り返りながら話されました。

会長は最近思う事として、国難と云われる少子化問題についてスウェーデン、フランスの例を上げ、「人口増の背後には夫婦別姓など戸籍廃止の動きがある。日本でもその様な流れになりそうなので危惧している」と懸念を表明されました。

最後に、会長は、日蓮の「立正安国論」に触れ、国の未来の為に自ら提案した「神州日本建設」と題した「自由国民連合起願文」を読み上げました。同起願文は十六項目からなる四字熟語で、自国連の目標を明確に示したもので、女性局の使命と役割を改めて自覚しました。



安倍元総理の揮毫「大和心」の石碑